

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

科学技術部会長 中島 稔
環境技術委員長 南川 秀樹
両団体執行理事 清原 淳平

環境技術委員会のお知らせ (第383回)

日時 令和5年3月22日(水) 午後1時半～4時
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第8会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第8会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

- 議題
- 1、環境問題について、昨今想うこと
挨拶 南川秀樹環境技術委員長
 - 2、コケ植物の原系体による環境浄化や金属回収に係る技術
解説 井藤賀 操 (株)ジャパンモスファクトリー代表取締役
 - 3、『環境技術関連ニュース NO. 215』
解説 中島稔科学技術部会長

報告 去る2月21日開催の第382回環境技術委員会は、南川秀樹委員長が議長を務め行われました。はじめに、南川委員長より、開会挨拶がありました。政府は、カーボンニュートラルの実現に向け、GX(脱炭素の実現に向けた取組を通じた経済社会システムの変革)を閣議決定した。その中身は、①産業界と住宅(断熱窓による効率の改善)の省エネ、②7年後までに再エネ比率を4割弱に。送電網(例えば北海道の洋上風力で作った電力を中継点の柏崎まで運ぶ直流海底送電網)の整備は急がなければならない。③原子力の活用。次世代核心炉の建て替えを具体化するとともに、最終処分への国民の理解促進。④その他、老朽火力発電所のメンテナンスや、カーボンリサイクル燃料(水素とCO₂でメタンを作ったり、飛行機の燃

料に食用油を活用するなど)の推進などがある。官民で今後10年間に150兆円超の投資を決定している。特に鉄鋼業などCO₂の排出が避けられない産業の保護に注力する。官民一体となって経済成長とCO₂排出削減の両立を目指す。

次に、清原淳平代表兼執行理事より、当日の講師・長澤剛東京工業大学大学院システム制御系助教の経歴紹介がありました。これを受けて長澤助教より、「排ガスの高効率浄化技術」と題して解説がありました。自動車の排ガス規制は年々厳しくなり、水素やアンモニアの自動車利用も増加が見込まれる。エンジンを効率よく動かそうとすれば汚れた排気が出るが、ガソリン車の排ガス浄化に広く使われる三元触媒においては、触媒の中のセリウムが酸素の吸蔵と放出を行うことで、高い浄化率を維持している。酸素の動きを細かく見ることができれば、低温での活性に何が必要か、経年劣化を抑えるにはどうすればよいか解明できる。なおかつ、触媒にレアメタルを使わずにすれば、コストを抑えることもできる。実験方法は、触媒内に水素を入れ、40分ほど還元反応させる。その後酸素を入れ、酸素の吸蔵がある程度進んだところでヘリウムガスを入れ急速冷却する。そして反応が止まったところを観察する。その状態で酸素分子がどこに分布しているかがわかる。触媒の界面の方が高濃度であること、高温(600℃)に比べ低温(400℃)下では触媒の浅い部分までしか浸透していないことなどが解明された。様々な条件を試し、酸素がどのような条件下で活性化するかを確かめ、性能向上に役立てていく。

次に、中島稔委員長より『環境技術関連ニュースNo.214』の解説がありました。今回は、○船舶向けCO₂回収システムの開発。○30年度を目標にCO₂地下貯留の実用化を目指す取り組み。候補地とコストが課題。○EV向けにレアアースを使わない磁石を開発。○スウェーデンで欧州最大級のレアアース鉱床を発見。脱中国に期待が持たれるが、供給までには最低10年かかる見通しで、環境悪化に懸念の声も。○新たな生分解性プラスチックの開発。等々が紹介され、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、3月22日(水)の環境技術委員会(衆1-地下1F、第8会議室)に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp